

敬 体（東京書籍）	常 体（教育出版）
<p>がんの群れを目がけて、白い雲の辺りから、何か一直線に<u>落ちてきました。</u>  <b>「はやぶさだ。」</b></p> <p>がんの群れは、残雪に導かれて、実にすばやい動作で、ハヤブサの目をくらましながら飛び去っていきます。</p> <p>「あつ。」</p> <p>一羽、飛びおくれたのがいます。大造じいさんのおとりのがんです。長い間かい慣らされていたので、野鳥としての本能がにぶっていたのでした。</p> <p>はやぶさは、その一羽を見のがしませんでした。</p> <p>じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと口笛をふきました。こんな命がけの場合でも、かい主のよび声を聞き分けたとみえて、がんは、こっちに方向を変えました。</p> <p>はやぶさは、その道をさえぎって、<u>ぱあんと、一けりけりました。</u>ぱっと、白い羽毛があかつきの空に光って散りました。がんの体はななめにかたむきました。もう一けりと、はやぶさがこうげきの姿勢をとったとき、さっと、大きなかげが空を横切りました。<u>残雪です。</u></p> <p>大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、何と思ったか、<u>また、</u>じゅうを下ろしてしまいました。</p> <p>残雪の目には、人間もはやぶさもありませんでした。ただ救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。</p> <p>不意を打たれて、さすがのはやぶさも、空中でふらふらとよろめきました。が、はやぶさもさるものです。さっと体勢を整えると、残雪のむなもとに飛びこみました。</p> <p>ぱつ ぱつ</p> <p>羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散りました。そのまま、ハヤブサと残雪は、もつれ合って、ぬま地に落ちていきました。</p>	<p>がんの群れを目がけて、白い雲の辺りから、何か一直線に<u>落ちてくる。</u>  <b>はやぶさだ。</b></p> <p>がんの群れは、残雪に導かれて、実にすばやい動作で、はやぶさの目をくらましながら飛び去っていく。</p> <p>「あ！」</p> <p>一羽飛びおくれたのがいる。大造じいさんのおとりのがんだ。長い間かい慣らされていたので、野鳥としての本能がにぶっていたのだ。</p> <p>はやぶさは、その一羽を見のがさなかった。</p> <p>じいさんは、ピュ、ピュ、ピュと口笛をふいた。こんな命がけの場合でも、飼い主のよび声を聞き分けたとみえて、がんは、こっちに方向を変えた。</p> <p>はやぶさは、その道をさえぎって、<u>パーンと一つ切った。</u>ぱっと、白い羽毛が、あかつきの空に光って散った。がんの体はななめにかたむいた。もう一けりと、はやぶさがこうげきの姿勢をとった時、さっと、大きなかげが空を横切った。<u>残雪だ。</u></p> <p>大造じいさんは、ぐっと銃をかたに当て、残雪をねらった。が、なんと思ったか、<u>再び</u>銃をおろしてしまった。</p> <p>残雪の目には、人間もはやぶさもなかった。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけだった。いきなり、敵にぶつかっていった。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけた。</p> <p>不意をうたれて、さすがのはやぶさも、空中でふらふらとよろめいた。が、はやぶさもさるものだ。さっと体勢を整えると、残雪のむなもとに飛びこんだ。</p> <p>ぱつ ぱつ</p> <p>羽が、白い花弁のように、すんだ空に飛び散った。そのまま、はやぶさと残雪は、もつれ合って、沼地に落ちていった。</p>